

ながさき次世代高校創生会議（第3回）会議結果

日時：令和8年2月16日 14:00～16:15

場所：セントヒル長崎 3階 紫陽花の間

【次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 事務局からの説明
 - (1) 魅力ある高校づくりに関するアンケート（教職員対象）結果について
 - (2) 県立高等学校再編にかかる大綱作成に向けての意見（検討依頼事項毎整理）について
 - (3) ながさき次世代高校創生会議「大綱素案」について
- 3 ながさき次世代高校創生会議「大綱素案」についての協議
 - (1) 『第1章「未来を拓く長崎の高校づくり～魅力化と再編のビジョン～」の策定にあたって』について協議
 - (2) 『第2章「魅力ある高校教育の推進」』について協議
 - ①すべての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に考え、多様な学びと社会参画を実現できる魅力ある新しい県立高校の在り方
 - ②社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性
 - ③特色ある教育を可能にする教育環境整備の在り方
 - (3) 『第3章「県立高校の再編整備」』について協議

（以下、委員発言概要）

（1）大綱策定にかかる検討事項毎の意見とりまとめについて

○教員の配置上の課題や、数が十分足りているかという視点は、再編に当たって重要。併せて子どもたちの多様性に対応できるような専門スタッフ、コーディネーターを配置していくことについても、国のグランドデザインで示された内容を実現するために重要な視点である。

○情報過多の時代において、情報を選択する力、知識を習得する能力だけではなく情報に価値を見出す力が求められている。それにより子どもたちの価値観、考え方も変化しているといった現状に言及してもいいのではないか。

○少子化で小・中学生数が減少する。学校の給食センターの機能を利用して県立高校でも

食事の提供ができないか。生徒と保護者の負担軽減になるとともに、安心した学校生活にも資する。

- 「子どもたちのため」が「教員のため」「長崎県のため」につながるので「子どもたちのため」という文言を追加してほしい。
- 本県は全国と比べて農業・工業・商業などの専門学科の設置割合が大きいことが特徴。こうした特徴を活かして AI に代替されない能力の育成を行うことの重要性についても少し強く記載してほしい。
- 探究活動は AI に代替されない能力を育成する重要な学びである。中学校から高校にわたって探究活動が継続して実施されることが重要であり、そうした視点から高校入試、大学受験が変わっていくことの必要性に言及できないか。
- 外国人の子ども、発達に特性のある子ども、診断が出ていない、いわゆるグレーゾーンの子どもたちが包摂され、生きづらさを感じず学んでいける環境や風土を教職員や子どもたちがつくっていくことが大事。
- 学びが魅力的になっていく一方で、学びについていけない子どもがいる。家庭の問題、障害への対応が必要であり、学校だけではなく福祉担当をはじめとした他部局との連携・協力体制が必要。
- 「コミュニティ・スクールの導入」について、小中学校の場合は学区がありそのコミュニティの中で作っている学校というイメージだが、高校はコミュニティをまたいで生徒が通学しており、捉え方に違いがあるので、「学校運営協議会制度の導入」と表記してはどうか。
- 高校と保護者が話し合う場、情報共有ができる場を作ってほしい。
- 第2章のタイトル「魅力ある高校教育の推進」について、「長崎県ならではの」という意味が読み取れるように表現したらどうか。
- 改善や検証することの重要性、教育制度は常にアップデートしていくという視点を盛り込んでどうか。
- 私立高校との連携について、スクールバスの運行、教員の交流人事など、公私間でできることはある。
- 「地域の将来を『担う』」という表現について、『創る』の方が適当ではないか。
- 「15年後の高校の姿」という設定について、時代が変わる中、もっと長期的な視野で、

継続的に取り組むといったニュアンスが出せないか。

- 1学級当たりの定員を減らすことを検討すべきではないか。
- 高校と地域と民間企業等が連携した取組が、関係人口の増加・拡大につながるという視点を記載してほしい。
- 「教育と産業界が持続的に連携できる仕組み」として、貢献企業へのインセンティブを与えることも考えられる。
- コーディネーターの活用に関して、学校と連携に取り組む民間企業の活用も考えてはどうか。
- 地元小・中学校と高校における教育活動上の連携は、離島地域だけではなくすべての高校で必要になるものである。
- 五年後、十年後には急速に公共交通の事情は悪化することが予想される。公立・私立にかかわらず、子どもたちの通学環境の整備に努めるという姿勢を打ち出していきたい。
- 理系の女子生徒を増やすためには、女性教員の存在が重要であり、企業との連携において女性の専門家を派遣してもらうなどの工夫が必要。
- 国の令和7年度補正予算 N-E.X.T.ハイスクール事業を活用しながら、人口減少時代にあったコンパクトシティの発想の下で新しいタイプの学校を作っていくべき。
- 第Ⅲ章における学校規模の考え方について、都市部と離島部を分けない方が前向きにとらえられるのではないか。
- 第Ⅲ章は、全体的に読む人がワクワクできるような表現にしてほしい。
- 高校生の学びの自由度を高めるために大規模校は必要。1学校あたりの学級規模について、どれくらいが上限なのかという議論も記載をしてほしい。
- 昨今の世界情勢を受け、若い世代の平和への関心が高まっていると感じており、長崎遊学ということで全国から平和教育に関心がある子たちが集う場をつくれぬか。長崎にとって意味のあるものになる。
- 全日制・定時制・通信制の垣根が低くなる中、通信制高校を利用して最先端の学びを提供することで、離島の高校も小規模にならないような仕組みづくりが出来ないか。
- 離島を多く抱える本県において、時限的に高校における少人数学級を実施するなど、環

境整備に必要な支援を国に求めるべきではないか。

○生徒の進路を保障するという視点もしっかりと押さえておく必要がある。

○15年後という位置付けについて、もう少し意味付けが必要。また、将来を担う子どもたちに対する願いをメッセージとして盛り込んではどうか。

○長崎の子どもたちにとっても、長崎を訪れる子どもたちにとっても、長崎は学びの場として素晴らしい場所になるというようなことも書き込めればいい。